



凡 例

輪郭構造
 滑落崖と側方崖

- 新鮮なまたは開析されていない冠頂をもつ滑落崖
- 部分的に開析されている冠頂をもつ滑落崖
- 冠頂が著しく開析された滑落崖
- 冠頂が丸味をおびて不明瞭になった滑落崖
- 開析されて無くなってしまった冠頂・滑落崖の推定復元位置
- 共通の冠頂をもち、互いに反対方向を向く滑落崖
- 中・緩斜の流れ盤すべり面が地表に露出し、滑落崖にあたる急崖を呈しない斜面、冠頂は尾根の反対斜面とすべり面との交線である。
- 後方崖、多重稜線等

移動体の輪郭・境界

- 後方に滑落崖があり、移動体の輪郭が明瞭ないし判定可能
- 後方の滑落崖は明瞭であるが、移動体の輪郭の判定が困難
- 滑落崖はほとんど開析されてしまったが過去の移動体の一部(不安定土塊)が残存している
- ほかの移動体や堆積物におおわれた部分
- 斜面体の移動の初期状態、基岩から分離していないとしても不安定域・移動域と推定される範囲
- 斜面移動体かどうか判定できない山体・小丘

内部構造

- 二次・小滑落崖、崖線の解析程度に応じて輪郭構造の場合と同様に表わす
- サブユニットの境界、内部(二次)移動体輪郭
- 移動体内の小尾根
- 幅の広い溝状凹地、亀裂
- 幅の狭い溝状凹地、亀裂

雁行亀裂
 線状窪地・小谷症候、→は谷の出口または谷底の傾斜方向
 池
 水のない窪地
 膨隆地の前線

移動方向等
 移動体の主移動方向

- すべり
- クリープ(漸行)
- 流れ・押し出し
- 落石など
- 前方への傾動または傾動を伴う移動とその方向
- 元の斜面傾斜と逆方向へ傾動した斜面の傾斜方向

その他

- 避難線
- 活断層(地すべりを変位させている顕著な断層)
- 地層面等および節理・断層の走向・傾斜

行政区画 索引図

長崎県 対馬市

()内は所属20万分1地勢図名

1:50,000 佐 須 奈

1000m 0 1000 2000 3000

調査者 清水文健・井口 隆・大八木規夫
 by Fumitake SHIMIZU, Takashi INOKUCHI and Norio OYAGI
 LM-759

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院 許可なく複製を禁ずる発行の数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平20東規、第339号)」